



鍼灸拔萃

一





鍼灸拔萃序

シヨクホツ凡欲治病者莫如用シクハモホク鍼巧運シクハウ神機キク  
メウラヨウハヒラク之妙用開聖理之深フカキ蠲邪輔正實タスクシヤウシヨク  
カチサスニ哉刺有手法有ホウ補瀉有ホシヤ迎隨時有カウダイトキニ  
ウシ溫涼寒熱人有ヒトニ虛實瘦肥正有ニサニ欲ホツ  
モクシ用鍼者先明此旨也ツギニサタメ次定脉候也ニヤクヨウ  
シユホウ手法刺禁穴處可審焉ツヒラカス予為タメニ初學シヨクカク



之人從素難諸家之鍼灸秘密妙  
 臆書中拔出其肝要集號鍼灸拔  
 萃極此意施治則庶乎行遠升高  
 之一助云爾

鍼灸拔萃目錄上

- 第一 四知之論之事
- 第二 脈之見樣之事
- 第三 腹之見樣之事
- 第四 五藏之色躰之事
- 第五 天地人男女之法之事
- 第六 太極之事
- 第七 針灸之慎之事
- 第八 艾葉之制法之事
- 第九 尺寸定法之事
- 第十 針入不拔樣之事
- 第十一 折入針拔樣之事

依四時人神。每日人神  
 血支日。血息日。長病日

依變際定法之事。大推定法之事



第十二 燃針燃樣之事

第十三 打針之手法之事

第十四 管針之手法之事

第十五 砭針之事

第十六 補瀉迎隨之事

第十七 阿是之穴之事

第十八 手指之圖之事

第十九 針之圖之事

第二十 藏腑之圖說之事

第二十一 骨度之圖之事

第二十二 經絡圖說病論之事

鍼灸拔萃上目錄終

鍼灸拔萃上

一 四知之論

神聖工巧望聞問切是ラ旨縻大成二ハ四象上云太類  
 太全二ハ四妙上云難經俗解ニ曰四知 難經曰問  
 知之謂之工切脉而知之謂之巧望而知之謂之神聞而  
 知之謂之聖又曰以外知之曰聖以內知之曰神  
 夫肝心脾肺腎五藏内ニ病時ハ即青黃赤白黒ノ五色  
 面ニ顯ル面色青ハ腹中ノ痛ニナリ赤ハ腹中ノ熱也黄  
 ナルハ脾ノ藏ヨワキ也白キハ腹中ノ寒也黒ハ腎氣ノ  
 ヤフル也 不飲酒如醉ナルハ神氣ノ不足手足ノ指ノビ  
 節アリスキタルモノハ病ヲ得テ遅ク愈ル也凡如此見ル  
 所ヲ以テ内腹ノ病ヲ知ラ望ト云ヒ神ト云



夫五藏内ニ有テ五聲ヲ出ス歌哭呼笑呻是也五音ハ  
又五聲ヨリ出ツ宮商角徵羽是也然レ病者ノ聲ヲ以  
其腹中ノ病ヲレレ譬ハ哭スル肺ノ病ト知ルスハナク鼻  
ヒル者ハ肺ニ風有ト知リ笑テヨダレ多ハ脾ノ病ト知ル怒  
ヨバワツテ涙多ハ肝ノ病也唾ヲ多ク吐キ呻ハ腎ノ病也  
也汗出テタハコトツクハ心ノ病也聲ノ輕キハ氣ノ弱也  
聲ノ重ク濁ハ風氣ノ痛也一向ニ聲ノタヌハ肺病也  
聲ノ急ナルハ神ノ衰ル也聲ノ塞ルハ痰ノシワサ也聲ノ  
振フハ冷ナリ声ノムセブハ氣ノ不順也アエクハ氣ノイソ  
カハシキ也アクビ多ハ倦ルナリ右如此病者ノ聲ヲ以  
藏府ノ病ヲ知ル故ニ是ヲ聞ト云ヒ聖ト云也  
夫五味ハ口ニ入胃ニ納ルト云ヒ是ヲ口カレコナレテ脾

ニ渡セハ則是ヲ五藏六府ニ散スル也五藏モ又其味ニ依  
テ受之也肝ハスキヲ好ム心ハ苦ヲ好ム脾ハ甘ヲ好ム  
肺ハ辛ヲ好ム腎ハ鹹ヲ好ム右如此病者ノキヲ  
ヒコノム味ロヲ問ワキニハテ五藏ノ病ノ發所ヲ知ル  
ヘシ又病者常ニ好シテ何物ヲ食レ何レノ日病ヲ受  
イカヤウニヤミハレメタルト委クトヒ尋テ病ノミナモ  
トヲ知ヲ問ト云ヒ工ト云 右以上三術ヲツクレ其  
後脈ヲウカヒ虚實ヲワキニハ九四道ヲ分別レ陰陽寒  
熱ヲアキラメ生死吉凶ヲ定ムルヲ診候ノ術ト云ナリ  
脈ヲウカハフ夏ハ神氣ヲレツメ呼吸ヲ定メテ取ルヘキ  
也脈ヲタシカテ藏府ノ病ヲワキニハ生死ヲ知故ニ  
是ヲ切ト云ヒ巧ト云ヒ針灸醫ノ三ツヲ行ハハ先



酒ヲ禁ズベシ婦人ノ念ヲ消スヘカラス貪欲ノ心ヲ生  
ズヘカラスソ子ム心ニクム心ヲ生ズヘカラス今ノ鹿醫ハ  
病人ヲ得テ後醫ハ先醫ヲソシリ先醫ハ後醫ヲソ子  
ム針者ハ醫ヲソ子三醫ハ針ヲ嫌フ仁ノ道ニ有ヘカラス  
古人豈不謂之君子欲達已先達人

二 脈法

男ハ左女ハ右ノ手ヨリトリコ、ロムルナリ。指ヲウケテ衛  
ヲサクルニ指ノハラニ浮ミ通モノアリ是氣ノ往來也其  
ヲ按シテ見ルニカアリテソト大ナルハ氣ノ實ナリ又カ  
ナクヨクキユルヤウナルハ氣ノ虛シタルナリ指ヲ少シシ  
ツメテ榮ヲサグルニカアリテソト沉ナルハ血ノ實シタル  
ナリ。亦チカラナク澁リテ弱ハ血ノ虛シタルナリ凡一息

ノ間ニ脈四動ヲウツハ平脈ナリ。少壯ノ人ハ四動半五動  
モウツナリ老衰ノ人ハ四動ヨリソキモアリ。一息トハ  
醫者ノイキヲレツヌテ呼吸ノ間ヲ一息ト云呼トハ出ル  
イキ吸トハ入ルイキノコトナリ少壯トハ十四五ヨリ二十  
已上ノ一老衰トハ六十ヨリ上ノ人ヲサシテ云ナリ

祖脈

浮ニカ 浮ニカ 浮ニカ 浮ニカ 浮ニカ  
沉ニカ 沉ニカ 沉ニカ 沉ニカ 沉ニカ  
遲ニカ 遲ニカ 遲ニカ 遲ニカ 遲ニカ  
ナキハ氣 ナキハ氣 ナキハ氣 ナキハ氣 ナキハ氣  
ナキハ冷 ナキハ冷 ナキハ冷 ナキハ冷 ナキハ冷



數ニテ加アル熱 數ハハヤキ脈ナリ呼吸ノアイダニ脈

此四ノ脈ヲ以テ一切ノ脈ノラヤカタトスルナリ故ニ祖脈ト云祖ハラヤカタトヨムユヘナリ

六脈

病人ノ脈ヲトル事醫者ノ右ノ手ノ食指ノ下ハ心脈中指ノ下ハ肝脈無名指ノ下ハ腎脈ナリ又左ノ食指ノ下ハ肺脈中指ノ下ハ脾脈無名指ノ下ハ命門ノ脈ナリ心肝腎肺脾命門六脈コレナリカクノゴトク心ヘテイツレノ脈タカブリイツレノ脈レブルト云フ其虛實病ノミナモトヲカンガヘテヨクレルモノナリ人煩テ脈病サル生脈ヤム時ハ人病サレトモシス

四季ノ平脈アリ春微弦夏微洪秋微浮冬微沉ナリ脈ニ七表八裏九道トテ凡四脈其外脈ノ數ヲヒトイヘトモ其大略ヲアラス

三 腹之見様 死ヲ知事

患人ヲ仰キニ卧サシテ兩足ヲノベサセ兩ノ手ヲ股ノワキニ付サセテサテ男ハ左女ハ右ノ乳ノ下ヲ手ノ平ニテ押ヘ病人ノ心ヲレツメサセ五六呼ノ程ラシテ其手ヲ下レ上腕ノ所ヨリ押ヘテ靜ニ左右ヲウカヒ見ル男ハ左ヲ先女ハ右ヲ先ニ見押ヘテ病人ノ心ヨキハ虚ナリ押テ痛ハ實也輕ク押テ痛ハ邪衰ニアリ重ク押テ痛ハ邪裏ニアリ臍ヨリ上胸ノ下スキテ臍ヨリ下フクレテ押コタヘ有ハ腎精ノ實ニテ無病人入トス胸ノ下フクレ臍ノ下スキ



タル腎ノ虚ナリ臍ノ上下ナレヨフテ何ノサワリモナク  
押コタヘ有ハ平生ノ常也或ハ堅ク或ハミダリニヤハラカ  
ニシテ木ノ枝ナド袋ニ入テサグリ見ルヤウ成ハタヒ  
無病ナリト云凡皆病アリ。左右ノ多ツ筋ハリテ有ハ  
性氣ノ虚也生死ヲウカ、フハ臍下三寸関元ノ穴ニテ  
ウカンフゾ此穴ハ天ノ元ノ氣ヲ我ニウケ始ル所則一身  
ノ大極ト沙汰スル所ノ經ニ曰ク臍下腎間ノ氣ハ乃人ノ  
生命十二經ノ根本ナリ。三焦ハ則元氣ノ別使ト有リ。此  
三焦ノ根本ヨリ始リ終ルモ三焦ヨリ終ルゾ然ルニ依テ死  
スル者ハ必ズ三焦ノ部ノ元ノ氣無キナリ。其一元ノ氣ヲ  
ヨク窺ヒ有無ヲ知ル則生死ヲ知ルゾ其ウカヒヤウハ手  
サキニテ押テ見ルニカナク空虚ニテ指ヲ動レミルニ中ク

ホニシテ立ニミツ有指ノ落入ヤウニ覺ゾ。秘臍ノ下堅石ヲナク  
ルガ如キ者ハ必死也。是上腹心傳受ト云アレ凡醫ノ秘密ナ  
ク此ヲ略ス。サテ元氣見脈ヲ見テ生死ヲ知ル先見脈ヨキ人  
ハ床ニツキ食不通過ト云凡本復スベシ見脈アレク腹圧ニアキ  
ハ極テ死症也。見脈目付アリニハ面赤ク眼白ニハ面青眼黄  
三ハ眼光ナク 四ハ鼻下人中ノ跡ナク 五ハ唇青身ヒエテヒ  
リバリレ六ハ食物ヲミテウレロキ 七ハ衣ヲナテ床ヲ  
サグリ八ハ髪スクミ麻ノゴトクナリ 九ハウチジノ筋ノ  
ビ十ハ手ノ内ノシワナク 十一ハ手足ノ爪青黒ク  
十二ハ唇ヨカレハレテ青白ク 十三ハ足ノ甲又ハ裏腫  
十四ハ身重ク大便タモタス 十五ハ眼ノヒトミラ不轉  
十六ハ身ワルクサク 十七ハミカブラ落入 十八ハ目鼻耳  
口黒 十九ハ面青白ノタワユトツキ 廿ハ兩頬赤ク一切ニ







五音	角	徵	宮	商	羽
五調子	雙調	黃鐘	一越	平調	盤涉
生數	三	二	五	四	一
成數	八	七	十	九	六
五經	厥陰 <small>多氣少氣</small>	少陰 <small>多氣少血</small>	大陰 <small>多氣少血</small>	大陰 <small>多氣少血</small>	少陰 <small>多氣少血</small>
五位	震	離	坤	兌	坎

右五臟ノ行色ヲモツテツノ病ノ三ナモトラ知ルモノナリ。  
 緬ニ青キ色ヲアラスハ肝ノヤブレナリ。赤キ色ヲアラスハ  
 心ノヤブレ腹中ノ熱ナリ。黄色ハ脾ノ藏ノヤブレ也。白キ色ハ  
 肺ノヤブレナリ。黒キイロハ腎ノヤブレナリ。肝心脾肺  
 腎ノ横ヘノ通りヲサダメサテツノ五藏六腑ノ行色ヲ  
 上ノ五ノ字ノ通りヨリ見下スベシ。カクゴトク會得セハ  
 五藏ノ色体々ヤヌク分明ニ知ルモノナリ

【五】天地人男女之鍼法

人ニ天地人ノ三オアリ。針ニ天地人ノ三オ有リ。人ニ天  
 地人ノ三オハ胸ヨリ上ヲ天トシ胸ヨリ臍ニテラ人トシ  
 臍ヨリ下ヲ地トス。天ニ輕淺地ニ重深。人ニ中様ヲ用  
 天ニ鍼深キトキ人ヲ殺ス。誠ニ針ノ大事口傳此所ニ有  
 是心ノ俞魂ヒノ宿スル處ニ近キ故也。天ニ針サスハ針ヲ  
 フレテ淺ク輕ク燃ルヘシ。若シ針刺シテ過ラズ其面ヲ袖  
 ニテラヒ口鼻ノ息ヲ溫メ面ニ風ヲアテスシテ男ハ足ノ三  
 里崑崙女ハ三陰交サテ男女凡ニ臍ノ下一寸五分氣海ノ  
 穴ニ刺シテ補瀉ヲナスヘシ。必ス蕪スルツ又鍼ニ天地人ノ三  
 オハ刺シテ皮肉ニ至ラ天ト云。肉内ニ至ラ人ト云。筋骨ノ間  
 至ラ地オト云也。七十難曰。春夏八宜淺秋冬八宜深。



男ハ淺ク。女ハ深ク。午前ハ淺ク。午後ハ深ク。女ハ是ニ病  
ス。是陰陽ノ法ナリ。針灸ヲ行フニ。先行年宜忌及人  
神在ル處ヲ定ムヘシ。不然ハ害有ルソ。万物ハ五行ノ理ニ  
分カズ。人ハ天地ノ正理ヲ故也。經曰ク。人ハ天地ノ氣ヲ受テ  
生ス。天ノ陽氣ハ氣トナリ。地ノ陰氣ハ血トナル。天地ハ万物  
ノ父母タリ。頭面喉膈心腹臍下。肩背肘腿手脚皆手  
法アリ。リミダリニ施スベカラス。

六 太極

針ニ太極ト云フアリ。此理ハ言ニノヘテモ心ヲチス心得ト  
クシテモ言ニノベカキフゾ。万物ノ上ニライテ太極ノ理ア  
ラスト云フナレ。先天地ノ太極ト云イマダ天地未分ノトコ  
ロヲ指テ太極トス。其太極判テ陰陽兩儀ヲ生ス。兩儀

四象ヲ生シ。四象八卦ヲ生ス。コレヨリ寒暑燥濕風木火  
土金水青黃赤白黒千變萬化トナル。分テ云時ハ虛無ヨリ  
混沌ヲイタス。清ハ上テ天ト成リ。濁ハ下テ地ト成リ。是陰陽  
ノ初ナリ。易ニテサタルトキハ乾坤未分ノトコロゾ。周茂  
叔ハ太極本無極トミタリ。太極則無極ナリ。心法ノ上ニ  
タスル時ハ色則コレ空空則コレ色ナリ。スベテ大空劫ノトコロゾ  
針ノ上ニライテサタルトキハ針ハ本金空ノ躰細少無心ノ  
者ナリ。ナニヨツテカキ變萬化ノ病ヲ治ス。コレ針者ノ  
術ヲウルトコロ。神瀉迎隨溫冷寒熱病ニ隨明手ヲ施ス  
ト太極ノ口傳アリ。レカレトモ極テ秘密ナレハ分明ニララ  
ハシガタレ。針ノ道ニヨクカナフトキハナシワイタラザルベケ  
レヤ。一氣其中ニ周流ノモツテ其神ヲナス。レイセンニソナワ



レル理ナリ外ニモトムヘカラス

針灸慎之事

針ヲ用ニテ欲共前日ヨリ房事ヲ忌ヘシ又針シテ  
ノ次日以上三日房事ヲ慎ミザ六針ノ驗微ナリ灸治  
ヲ用ニテ欲共前三日ヨリ房事ヲ忌ヘシ又灸治ノ後七  
日房事スヘカラス針灸ヲ用ル時怒ルベカラス若怒ル事  
アス暫ク氣ヲシツメ氣定テ後ニ灸スベシ又甚飢飽  
酒醉ノ時勞役ノ時針灸スヘカラスサテ灸ノ後三日風  
呂ニ不入又湯ニ不入洗足ハ盥用ヨリ用ユベシ  
右針灸ヲ行時風ニアタルベカラス窓隙ヲヨク閉テ行ヘシ

四季之人神

春ハ左脇 夏ハ臍 秋ハ右脇 冬ハ腰

毎日之人神

一日足大指 二日外踝 三日股内 四日腰 五日口  
六日手 七日内踝 八日足腕 九日尻 十日腰背  
十一日鼻柱 十二髮際 十三牙齒 十四胃脘 十五遍身  
十六胸 十七氣衝 十八股 十九足 廿日内踝  
廿一手小指 廿二外踝 廿三肝俞足 廿四經陽明  
廿六目胸 廿七日膝 廿八日陰 廿九日膝脛 卅足ノ趺

十二時人神

子起 丑頭 寅取 卯醒 辰環 巳手 午臍 未臍 申心 酉髀 戌腰 亥股

血忌日

正丑二末 三寅 四申 五卯 六酉 七辰 八戌 九巳 十亥 十一午 十二子



正 丑 二寅 三卯 四辰 五巳 六午 七未 八申 九酉 十戌 十一亥 十二子

長病日

六日 十五日 十八日 廿三日 廿四日 廿九日  
右此日鍼灸并初テ藥服スルモ忌ベシ

〔八〕艾葉之制法

本草ニ云ク艾味苦氣微溫陰中陽無毒主灸百病三月  
三日五月五日ニ採艾殊ニ神矣アリ。申ニサラシクニ搗  
テ後手ニテ揉綿ノ如クニシテ可用年ヲ經タル弥佳也  
紙ニテ卷長サ二分ハカリニ切ヘシ。髀サハ切口三分ハカリ  
人ノ氣力ニ應レテ大小ヲ量ルヘシ小ナク俞穴ニツル  
事アリ 千金ニ 黃帝曰ク灸不三分是謂徒勞也  
務大也小弱ニ乃小作之明堂下經曰凡灸欲炷根下

三分若不三分即灸氣不能達病未能愈小兒ニ小麥ホト  
ニスヘシ氣力ヨキ人ニ和カニヒ子リテ用ユヘシ。

灸火法

鉄石ヲ以テ打テ火ヲ出シラタヌ麻油ニ燈心ヲ入テトモ  
シ火トシ此火ニテ灸スヘシ諸木ノ灰魚ノ油ヲ用ユヘカラス箸  
ハ桃ノ枝ノ東ヘ引タルヲ三月三日ニトリテ用ユヘシ竹モクルシ  
カラス灸シラワリニ口ニテ蓋ヲカニテ其灸穴ニ付テ又  
二三壯モ灸シテ置クヘシ

尺寸ヲ定ル法

男ハ左女ハ右ノ手ノ中指ノ第二ノ節ノ上ノ折目ト下ノ  
折目トノ間ヲ其人々ノ一寸ト定ル也折目ニ内外アリ食  
指ノ方ヘ向タル折目ヲ取ヘシ無名指ノ方ヘ向タルヲハ取



ヘカラス中指ヲ屈シテ取ル屈スル口傳アリ如環スヘシ

髮際ヲ定法

凡ハ髮際ノ分明成ル子細ナレ若髮拔テ髮際ノ分明ヲザルハ兩ノ肩ノ正中ヨリ三寸上ヲ前ノ髮際ト定背大推ヨリ三寸上ヲ後ノ髮際ト定也

大推ヲ定法

大推ヨリ上ニ小推ツアリ或ハ二ツ有ルモアリ或ハ又ツモナキモアリ大ノ字心ヲ付テ取ルヘシ又秘傳アリ肩ト齊キヲ大推ト定ムヘシ

十 針入テ不拔事

針肉内ニ入テヒケ出不出下セドモクダラザルト間々アルモノゾ或ハ針入度三四五分ニシテ難出ハ皮肉針先キニ

シテリ纏ツキタル也此拔ヤウハ呼吸ヲウカヒ指ニカヲ入テ一競ニラツト拔ヘシ又一二寸モ燃下シテ出カタクハ臟腑ノ邪氣令運動針サキニ寄集テ針ニト付タル也且進退動搖セシテ邪氣ヲチラサシメテ而指ニカヲ入テ心シツカニ拔ヘシ是手法ノ口傳也難出トテ不可驚如此心得ル時ハ無不出

十一 折鍼

本草云醫工人ニ鍼シテ而針折レテ肉内ニ有テ出ズニ壯鼠ノ肝及腦ヲツキクタクキテ針口ノ上ニ塗ヘシ又針ニカキラス何ニテモ肉ニ入テ不出ニ象牙ヲ粉ニシ水ニテトキテ上ニ付ヘシ忽チ出ルナリ

十二 燃鍼手法



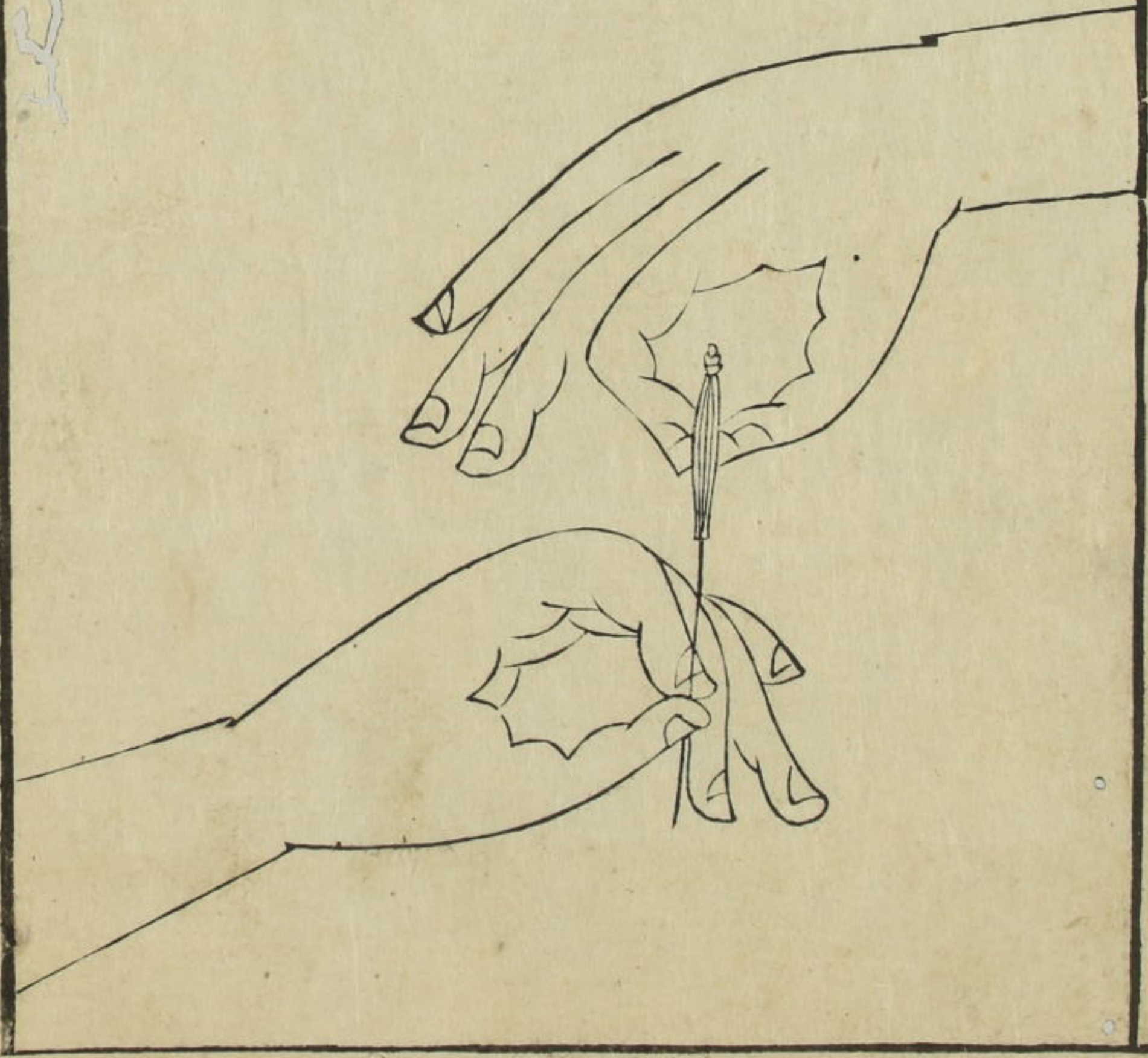
欲行鍼者先四知ヲ定ムヘキ也サテ我ガ忘レテ正シテ病  
 人ニ心ヲ付念ヲ鍼ニ移シ目ヲ外ニ見ルナク人トモノイ  
 ハス腹ニ行トキハ先ヅ左ノ足ヲ敷右ノ足ヲ立テ鍼先ヲ  
 ロニ含ミ左ノ手ニテ病人ノ腹ヲ窺ヒ見テ得穴也其針  
 セント思フ穴ヲミツ左ノ大指ソトハラ爪ノ角ニテ五六  
 呼程其穴ヲラス金針部曰爪ヲ以テ其穴按重ノコレヲ  
 切トアリサテ中指大指ヲ合セテ穴ノ上ニ置右ノ肘ヲ  
 膝ニテセテ鍼ヲ以テ穴ニアテ左ノ中指ニテ鍼口ヲ推ヘ  
 食指大指ヲ上テ鍼ノ中ヲ持右ノ食指大指ヲ以テ輕ク  
 撚リ下ス急ニ撚リ急ニ下セ共痛テ忍ビカタレ呼ニ隨ヒテ左  
 右ノ食指大指ニテ和カニ押シ下セモニ神瀉迎隨溫涼寒  
 熱ノ刺ヤウアリ經曰刺ノ留ルヲ春夏ハ二十四息秋

冬ハ三十六息ニテ針ヲ出スト有リ然レモ元氣衰タ  
 ル人ニ五六呼ニテ針ヲ出ノ能キゾ針ノ技キヤウハ先ヅ少  
 出レサテ持チナラシテ引離ス中指ニテ鍼ノ口ヲ推レモム  
 是ヲ針口ヲ閉ルト云鍼ヲ出スヲ急ニ手鹿ナレハ針口ヨリ  
 血出ルゾ是榮衛ヲ破ルナリ七十一難曰榮ヲサバ衛ヲ  
 ヤフルヲナカレ衛ヲ刺バ榮ヲヤフルヲナカレト也血ハ榮衛ノ主  
 タリ血出ハ何度モ閉ヨ醫經曰ク針ヲ出スヲ謾ニ出スヘ  
 カラズ三四次徐々ト轉シ出セハ血イテスノヨキゾニタリ出  
 ストキハ必ス血ヲミルトアリ凡肥人ニ針刺スヲモ深ク瘦人  
 ニ淺ク刺ス也大人ニ針モ大小兒ニ細キヲ用ユ初メテ  
 針ヲミナフ人ハ先我カ腹ニ刺テ針ノトラリ様子ヲ能ク  
 察サテ他人ニ可用也金針ハ最上也何病ニモ効速ニ銀針



ハ鈍レ鐵針ハ惡レ殊ニ久ク用ユルハ肉ノ内ニテ折ルモノ  
 ズ鐵針ヲ用ユルコト勿

ヒ子バリバリノ圖



十三 打鍼

打鍼ハフカク刺フナカレ淺クシテ効アリ。一身ハ榮衛ヲ  
 以テ主トスルナリ。榮衛ハ氣ト血トノ二ツ也。天樞經  
 ニモ浮氣ノ經ニ隨ヒ運ルモノヲ衛氣ト云其精氣ノ經  
 レタガヒテ運ラ榮氣ト云氣ハ血道ノ外ヲ浮テ輕ク運  
 ズ血ハ筋ノ底ヲ流循スル也。氣ハ陽衛是ナリ。血ハ陰  
 榮是ナリ。氣ハ外ヲメクラメ。肌肉ヲ温メ。血ハ筋ノウチヲ  
 ナガレテ。筋ヲウルホス。サレハ氣血ハ十六丈二尺ノ脈道  
 ヲ一呼ニ行ク。三寸。一吸ニ行ク。三寸。呼吸定息。脈行ク  
 フ六寸。一晝一夜ニ一萬二千五百息。脈行ク。八百一  
 十丈。晝夜百刻ノアイダ五十篇。タルナリ。氣ノ往來血  
 ノ流通。太過不及。虛ト實ト。ヨツテ諸病ヲ求ム。打針



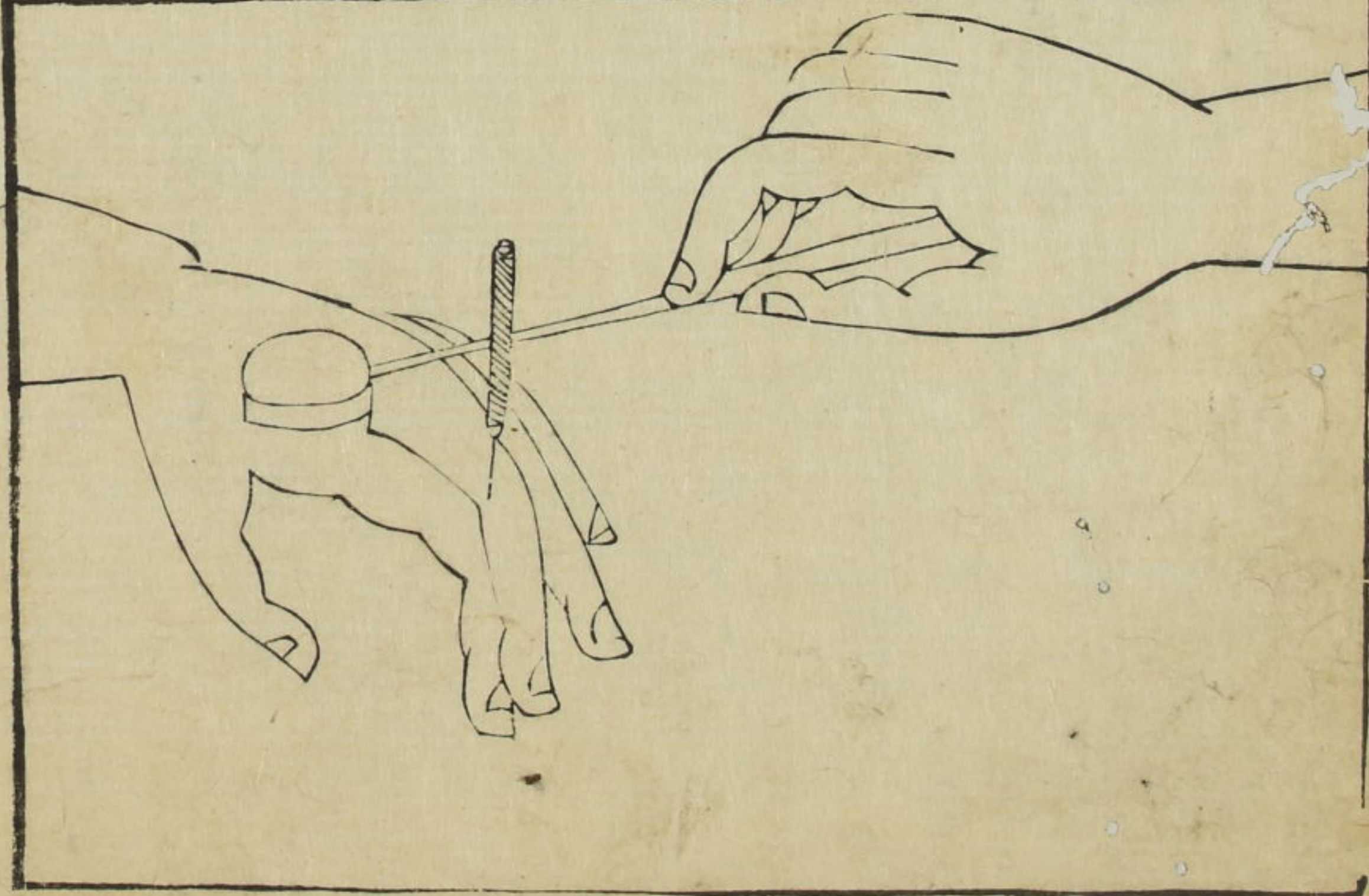
ノ理是ヨリ針フトクレテ槌ニテ撃テヨリテ衛榮ヲ甚  
動搖シ骨髄ニ徹ス手法ハ病人ニ立ヨリ左ノ足ヲレキ  
右ノ足ヲタテ槌ス右ノ足ノ甲ノ外ヅラニテラヘヨクヘ  
レ先槌ノ置キドコロサダメザレバ置キワスルモノゾサテ針  
ヲロニ含ミ左ノ手ニテ病人ノ腹ヲウカ、口見テ中指ヲ  
食指ノウレロニ重テ穴處ニ置キ。針ヲ中指食指ノ間  
ハサニ針銃ノ肌ニツカヌホドニレテ槌ヲトリ針ヲ打ナリ  
打ヤウニ口傳アリ。手輕ニレテ皮ヲ切ルニ痛ニヌヤウニ  
ツツナリ。入ルヲ一分ニレテ槌ニ手コタヘアリ。コレヨリ二三  
分ニモ至ル深キヲキラフツ。打テ榮衛ヲウゴカレ推テ  
肉ノ内ニ徹シ燃テ補瀉迎隨ヲ行フツ。針出レテ後孔  
閉ヨ推手ツヨク槌ヲカルクツツベレ推手ヨク槌ニテナリ

アハ痛ノナ、ルトホトハ田舎ノモノ云フ如シ或ハ  
ナリ或ハ言説不分也槌ノ打様ハレトロニナキ様ニ  
一ニヲカゾユルガ如ク手ツヨクウツベレ打鍼ノ本意ハ  
腹バカリニ用テ外ノ經ニカ、ワラスズ其深意ハ諸病ノ  
本五藏ニテリ格致餘論曰ク病ノ本有レハ草ノ根有  
ゴトレ葉ヲ去レ根ヲササザレバ草ナラアリ。病ヲ治ス  
一草ヲ去ル如キノ病ノ藏ニ有ルヲレカモ腑ヲ治シ病表  
ニ有テ而モ裏ヲ攻ムトアリ。諸病ハ皆五藏ヨリ生ス然  
ルヨリ病ヲ治スルニ其本ニ求テ治スルカ本意ノ或ハ眼筋ハ  
ヲ病トキハ肝ノ腑ニ針ヲ刺スツ鼻皮息ヲ患ルトキハ  
肺ノ腑ニ針刺ス餘ハ皆コノ例ニ效ヘ諸病ノ見ルトコロヲ看  
テ其本ニモトヅイテ治ヲ作ス打鍼ハ腹ヨリ外ニ用ユルハ



本意ニアラス入ルモ一ニ  
分ヨリ深ラ要トセスツ槌  
ニ手ゴタヘアルハ骨髓ニ徹ス  
ルゾ口傳有之

ウチバノリノ図



十四 管鍼之事

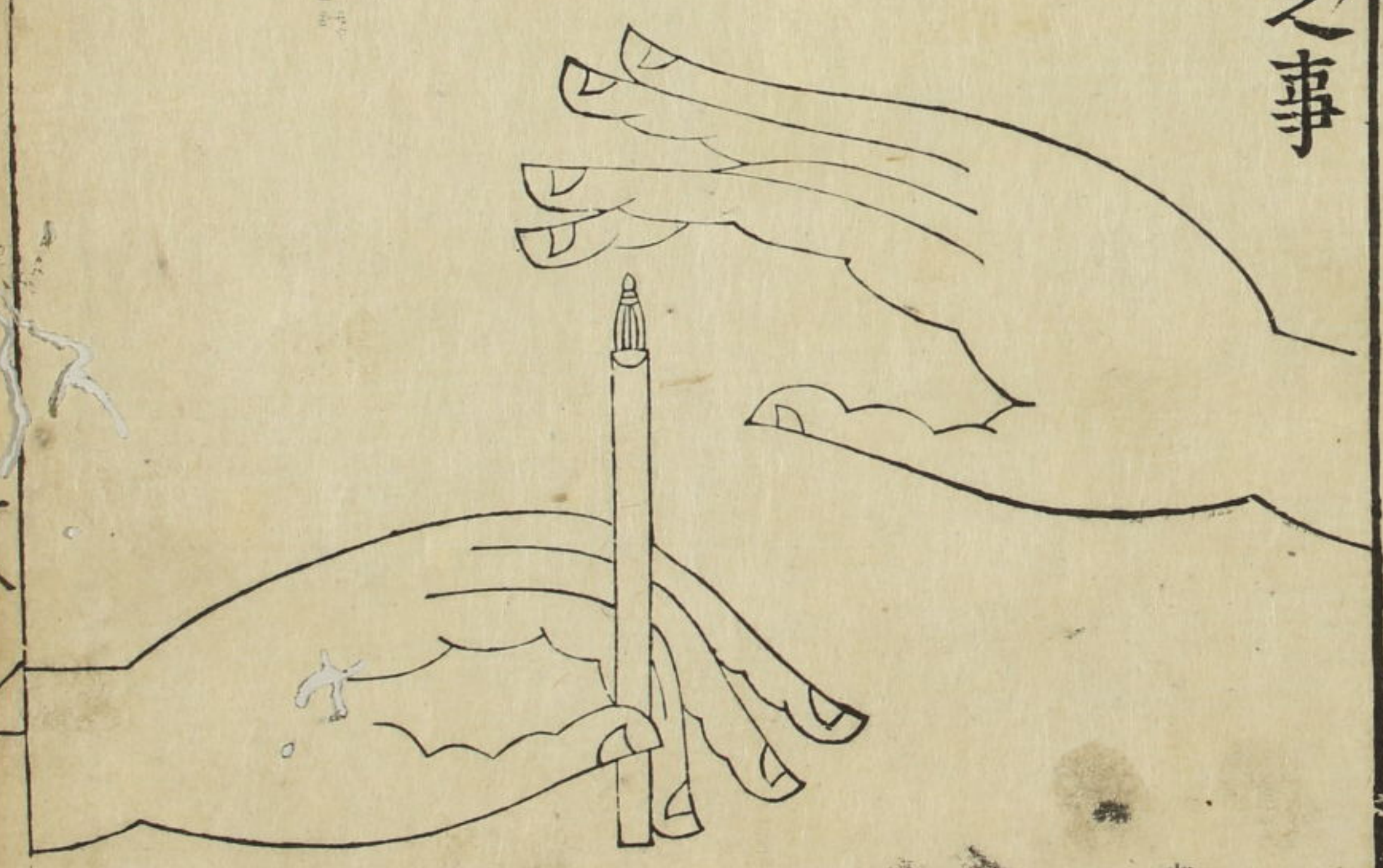
撚針ハ手法得難シ。打針ハ沉痾ニ至テヲヨビカタシ。且  
ニ針ニヨ、鼻レ有テタベニ道ニイタルハ管針ニレクハナシ。  
ナビヤスクレテ針ヲ下スニ痛ズ病人ノ精氣衰ヘス  
手法ハ左ノ手ニテ管ヲ穴ノ上ニ當テ。針ヲ管ニ入テ右  
ノ食指ヲ中指ノ後ニ重テ食指ノハラニテ。針チクノ管ヨリ  
出タル分ヲ下ス。ウカフテハシケハ痛ム。一キホヒニ  
ハシキ下スベシ。管ノ持ヤウハ大指ト食指トニテ中ヲ  
モチ。中指ニテ肉ヲ推ヘ針ヲシキ下シテ。管ヲスキ去  
右ノ食指大指ニテイカホトモ撚リ下ス。下サレテ静ニ  
撚ルハカリニテ大方ノヤニヒヲ治スル。其樞ニ曰ク鍼大  
ニ深キトキハ邪氣反テ沉ニヤ。ヒノヨク益ス。有ルゾ



管鍼ノ寸法アリ。管ノ長ケ二寸五分。針軸寸穂寸八  
 分。惣長二寸八分。管ヨリ針三分ナガレ針ノ形チ大躰  
 ヨリ。スモシフトキガヨキゾ。細キハ針ノ中レケリテ針口痛ソ  
 小兒ニ用ユル針モホソク軸五分穂一寸二分。管一寸五  
 分手法右同事ナリ。針ノ流サセクマニトイヘトモ或ハ理  
 ニ叶ハス其半ニ効有テ半ニ害在リ。或ハ半ニモ効アラサ  
 ルモ有ルソ。其中ヲ撰ニテ惡ヲ棄テ効有テ書キ  
 スルモノナリ。一文不通ノ族ヲ愚ガ宏才辨舌ヲ以テ  
 自己ノ我流ヲ立諸人ヲタラカレ針灸ヲホトコシテ人  
 フノヤマスマカララ多シ。マコトニ深ク可慎哉。ヤマヒヲ  
 醫習スルニハ醫經十四經并ビニ針灸ノ諸書ヲ明カ  
 ニシテ。而後ニ治ヲホトコスベシ。

十四 管針之手法之事

クダバリノ図





十五 砭針之事

軸一寸穂六分穂ノ太三麥ノチクホトニシ。針尖ヲ三人。錐ノ様ニシテ小兒針ノ管ニ入レテサテ、腫物ノ口ヲアクル時日腫ノ血ヲ取時。ケンベキノ血ヲ取ル時邪氣集リテイタミヲ成ス時此針ヲ刺レテ血ヲ抜ナリ奇驗アリ

十六 補瀉迎隨之事

手法ノ補瀉虚實ノ補瀉アリ。先針銚ヲロニフク三溫針オラシメテ右ノ肘ヲ向ヘリ。手サキヲ内ヘカ、メ大指サキヲ前向ヒ呼氣ニシタガヒテ食指ヲソヘ大指ニテ和ニ然リ下ストキ呪レテ曰ク 五帝上直六甲玄靈氣付至陰百邪閉理ト三篇念ス入コト二三分留ルコト

五六呼經ニシタガヒ病ニシタガヒテ然リ下シ追退動搖セシメテ氣ヲ至ラシメ。手ヲ振ヒ鍼ヲハジク徐々ト瀉ハ肘ヲサゲテ我が前ニ付。手サキヲ向ヘナレ。大指ヲサキニ向テ吸ニシタガヒテ然リ下ス。大指ヲ添ヘ食指ニテ然ルトキ呪ノ曰ク 帝扶天形護命成灵ト誦スルコトニ一遍入コト三分留ルコト五六呼ニシテ經ニ迎ヒ病ニ迎ヒテ然リ下ス。氣至テ左手ニテ鍼ノ口ヲ開キ呼ニ隨テ針ヲ出ス。孔ヲ閉サルガヨキツ呪ヲ念スル時ハ一心針ニ念ヲヨスル。是手法ノ瀉ナリ。婦人ハ是ニ變ズ補法ヲ瀉トシ瀉法ヲ補トス 虚實ノ補瀉ハ不足ヲ補ヒ瀉ハ有餘ヲ瀉ス不



足ハ瘡ヲトシ痲ヲナス有餘ハ腫ヲシ癰ヲナス天民ガ  
正傳ニ曰ク其鍼ヲ刺ニ神瀉ノ法有リトイヘ凡予恐  
クハ俱ニ有瀉無補ト云々レカレドモ此文設ニ針法  
ノミニシテ手法ノ論ナシ予以テラク靈樞曰ク欲以微鍼  
通其經脈調其血氣當其逆順出入之會令可傳  
後世必明為之法トアル又アル人ノ説ニ曰ク世俗ノ醫  
者ガ云フハ鍼スルトキハ氣カヲトシ病ニ宜シカラスト云フ  
我イマタ鍼シテ人ノ氣カヲトシ病ニ宜シカラスト云フ  
ソレ人ノ病ハ邪氣勝テ正氣ニクルゾ蓋シ針ハ邪氣ヲシ  
ゾケ元氣ヲ生スルモノゾ登針ヲ刺シテ氣カヲトシ病  
云フ有ラシヤ我俗醫ノ言フトコロノ意旨ヲウカヒ  
看ルニ只針ハ忍痛ノ勞アリ是フ以テ針スルトキハ氣

カヲトシ病ニ宜シカラスト云フイサカ針經ヲアキラメテ云フニハ  
アラスマコトニコレ俗説ナリ不足信トシレカリトイヘ凡  
世人ノ能ク信スルモノ俗説ナリ世人ノ信セサルモノハ  
至言ナリ論ズルニ益ナキトシ蓋シ針ニ痛ニ性無キ  
トゾ痛トイタマハル刺者ノ能ト不能トニ依ルゾ若シ妙  
手ヲ得ト有ラハ何ゾ忍痛ノ勞ト云フアラスヤ故ニ靈樞  
ニ曰ク能刺者不傷肉而能中病トアルゾモ針  
ノ其來ルヲ尚キトゾ寧一人ノ不能ヲ以テナカク萬  
世ノ針法ラスツルヲセンヤ針ニ忍痛ノ勞アル刺者ノ  
不能ナリタゞ針ノミニアラス藥ニ於テモ亦然リ醫  
ノヨレアレニヨツテ藥ノ人ヲコロス又針ヨリモスキタリ  
モシ好手ニ逢トキハ針藥共ニ病ヲ治スルヲ惡手ニ逢



トキハ針クスリ共ニ人ヲコロスモノゾ。ナシグヒトリ針ニライテ  
ソノ害ヲ論ズルアラスヤ。時ニアル人問テイハク。曾テ聞  
針ニ浮アリ神ナレト是ヲ以テ人ニナコレヲヨルゾ  
予ガイハク。針ニ浮アリト云。正ニ病者ノ有餘スルトヨ  
ヲ刺シテ實邪ヲ浮スル義ナリ。浮藥ノ如キノ義非  
ス。又針ニ補ナレト云。ヲ知ラサルソ。既ニ針經ニ補ノ  
義ヲ宜ヘタゾ。タレカコレヲ知ラザラヤ。不足ヲ刺シテ病  
ヲ除クトキハ元氣ニチヲ得テ順ルゾ。コレ元氣ヲ生ス  
アラスヤ。假令ハ人東ヨリ西ヘ過ル如キゾ。中途ニ奸賊  
有テコレニ碍ルトキハ人過ルアタハサルゾ。時ニ傍觀ノ  
者有テ。カノ奸賊ヲ追ヒシリゾクルトキハ人ヤスクレテ  
三千ヲ過ク。マサニルベシ遂ヲスグルモノハ正氣ナリ。コレヲ碍

ル奸賊ハ邪氣ナリ。カノ奸賊ヲ追ヒシリゾクルモノハ針  
アリ。君見スヤ針ニ四法アリ。其一ツヲ迎隨ト曰ヒ是針  
ニ補アリ。浮アルノ證ナリ。何ソ偏ニ補ナレト云ハシヤ。予  
醫書ニアラストイヘ厄多病ナルヲ以テ。保養ノタメニ閑暇  
ノ月時ハ醫家ノ書ヲ把テ讀テ針藥相去ラサケヲ  
知ル古ニ所謂醫者カナラスニ世ノ書ニ通スト。コノ語ヲ以  
テニルトキハ何ゾ偏ニ藥ヲ取テ針ヲステシヤ。所謂ニ世  
ノ書トハ黃帝針灸經神農本草岐伯脈訣ナリ。脈  
訣ハ察証本草ハ藥ヲ辨ズ。針灸ハヤミヒヲ祛ルゾ。是ノ  
三ノ者ニアラスハ醫書ト云不足ゾ。コノコトヲ以テ見ル  
トキハ是醫家ノ要具ナリ。イマクスリヲホトコスモノ  
ヲ呼テ醫書師ト云ヒ針刺スモノヲ呼テ醫師ト云ズ



一コトニ可突哉。藥治ト云ヒ灸治ト云ヒ。針治ト云ヒ。豈病ヲ治スルモノ醫ニアラザランヤ。醫師トシテ針ヲソシルハ武士ノ兵カフソシル如キゾ。國ニ奸賊アルトキハ兵カフ用ヒ人ニ疾病アルトキハ針藥ヲモチユタトハ藥ハ智仁ノゴトシ。針ハ兵ノゴトシ。智仁ヲ表ニシ兵ヲ裏ニスルトキハ剛柔ソナハツテ國豈ヲサマラザランヤ。クスリヲ表ニシ針ヲ裏ニスルトキハ強弱カ子テ疾寧愈サランモ。凡人ノ經十二各經五穴アリ。井榮俞經合ト云フ是ナリ。五ニシテ十二ナルトキハ六十穴ナリ。コレ針ノ要穴ナリ。針灸ノ穴一身ニ三百六十穴ソノ針スルトコロノ要穴六十又ソノ要ナルモ二十四穴ナリ。腑ノ病ニ各經ニ依テ其經ノ俞ヲ刺ス。臟ノ病ニ各

經ニヨツテ其經ノ合ヲ刺ス。コレ十二俞十二合アワセテ二十四穴コレナリ。俞コレ各經ノ本原ナリ。故ニ又原穴トモ名クルゾ。其經ニ病アルトキハソノ經ノ原穴ヲ刺シテ治スルソノ經實スルトキハ之ヲ浮シ。虛スルトキハコレヲ補ス。素問ニ曰ク浮ニカナラズ方ヲモチヒ。補ニカナラズ圓ヲモチユ。アル人ノイワク方圓ノ義イカン。予ガイハク。方トハ氣ノ方ニ盛ラントスル方ナリ。コレ氣ノムサニサカナラントスラ見。コレヲ迎ヘテ刺シテ氣ノ實抜ク。故ニ浮ニ方ヲモチユト曰フ。圓ハ行ナリ。後ナリ。宜サルノ氣ヲ行シ。イタ復サルノ脈ヲ移スナリ。宜サルヲメクラシ。イタ復サルヲ移シテ。コレヲ濟フ。コレ虛氣ヲ扶助シテコレヲ補フナリ。迎隨ノ義ナリ。タトハ足ノ三陽ノ經頭ヨリ足ニイタルニテ針ヲ刺スモノ。指ヲ以テ經脈ヲ



摩リ上セテ針鉗ノ上ニ向テ經脈ノスムニ逆テコレヲ  
刺シテソノ實ヲ抜クコレ迎テ奪ノ義ナリ。又刺人ノ  
ユビヲモツテ經ヲ摩下シテ針鉗下ニ向テ經脈ノ  
後ニ隨テ刺シテソノ虛氣ヲ濟フコレ隨テ濟ノ義  
ナリ。虛シテ脈滯テ移ラズカルカユヘニ後ニ隨テ刺シテ脈ヲ  
移ラズメ氣ヲノビシム。タトヘハ牛勞シテ車後サルヲ人後  
ニシタカフテソノ輪ヲ推シテカフ牛ニアワセテ以テ車  
ヲウツスガゴトキゾコレ隨テ義ナリ。經脈ハ子ヨリ午ニ  
イタリ。午ヨリ子ニイタツテ陰陽上下ノ分カンガフ  
ベキナリ。イマソノ鹿ヲアグルノニゴニライテフカク思  
惟セバ針ハ實ヲ奪ヒ虛ヲスクフテモツテ經脈ヲトナラ  
ルモノナラン。經脈ダグラサルトキハ五藏六腑邪ヲ受ク。若

運用ノ途ヲ断ハツレ關格ノ憂ヲイカン。蓋關格ハ命ヲ  
盡サズシテ死スト。コレ古人ノコトハナリ。針ハソレ急救ノ  
方手ヨク刺ストキハソノ功藥ヨリモ早キゾ。又經穴ニ  
カ、ウラスシテ病ノ處在ヲ刺ス。コレ散針ト云。徐氏又  
コレヲ不應穴ト云。今時ノ刺者多クコレ散針ノ一法ノ  
ニ。タトヒ經穴ヲカガヘテ刺スモノアレ。又迎隨道理ニ  
的當セサルゾ。針ノ經ニ當ルトイヘ。凡迎ヘテウバヒ隨  
テスクフノ義ナシ。長針ヲモツテ。フカク刺スユヘ經脈ヲ  
ラスキトヲシテ針ムナレク臟腑ニ入テ損傷ヲナス。古人  
ノ禁戒スルトコロゾ。腹ニ針スルヲ數十日。針藏腑ヲ損  
シテ膿潰シテ死スモノ。兩人ヲ見ル。世間イクバク人カ如此  
ナラン。モロクノ經脈ニテ外ニアツテ針壞ニ入ルゾノ用ナシ



ソノ穴ニヨツテ針入ル一二分。或ハ二分半三分各分アリ。カルガユニ昔ハ周身三百六十穴。針モ又三百本本有テ。ソノ經ヲ刺ス。ツノ針ヲモツテス。ソレ針ヲ刺スモノヨク知レ。容易ニシテ深ク刺シテ。損セサルヲ損シナシ。傷レサルニ傷ヲ成スベカラス。抑予カ刺ス處ノ針ハ本邦針家ノ祖無分ノ末流ナリ。病ノ頭ニ在ルモ又腹ニ於刺シ病脚ニアルモ又腹ニツイテ刺ス。一身ノ病都テ腹ニ於テ刺ス。ツノ針ニ次序アルツ。諸病先ツ臍ノ下一穴ヲ刺ス。コレ腎間ノ動氣ニツ十二經ノ根本ナリ。コレヲ刺シテ以テ元氣ヲ却シテ而後ニ散針ノ法ニヨツテ經穴ニ拘ハラス。シテ邪ノ所在ヲ刺シテ。元氣ノ巡途ヲ開テ通セシムルトキハ氣順スル。氣順スルトキハ痰順スル。痰順

トキハ熱散ス。熱散スルトキハ風内ニ消ス。泥ヤ又氣順スルトキハ血活ス。血活スルトキハ潤ヒ生ズ。ウルホヒ生ズルトキハ精生ズ。精生スルトキハ神内ニ立ツ。蓋シ針ノ功ヲ成ス。ツカクノゴト。古人滿身ニ刺ヲ以テ好トセス。俞府ヲ以テ好トス。腹ヲ刺ヲ以テ好トセス。四肢ヲ刺ヲモツテ妙手トス。コレハタゞ臟腑ニ中ラシテヲ恐レテ此ノコトキゾ。タトヒ俞原ヲ刺スモ。又四肢ヲ刺スモ。意ヲ得サルトキハ不可ナリ。腹ヲ刺ス。凡意ヲ會得シテ刺ハ可ナリ。古人腹ヲ刺ス。ツヲ禁ムルハツレ針深ク入テハ藏府ヲ損スル。ツ多シ。藏府ヲ損スルトキハ立ツトコロニ死サレ。凡害ヲナス。ツ予ガ刺ストコロノ針ハ針ノ銳ガ皮裡膜外ニ止シテ。藏府へ入ラザル。針ガ藏府へ入テアバ針



ヲ刺テモ功ナキレゾ。ソノ故ナニト云フナク。四氣外感ノ熱  
七情内傷ノ火薰蒸シテ有膜鞅結シ膜外張煖ノ温  
熱ニ汗ヲスレテ垢ノ身ニツモルガゴトシ。又電ノ上ノ煤ノ  
ゴトシ。又嚴寒ニシテ霜ノ木ノ葉ニ浮ブガ如シ。イワシヤ又乾  
枯スレバ鼓ノ皮ノ急張スルガゴトキゾ。カルガユヘニ膜沉シテ裡  
ニツイテ藏府ヲ押ヘテ元氣ノ途ヲ絶スルゾ。コノトキニ當  
テ氣溜滯シテ諸病ヲ起スゾ。予ガ刺ストコロ只針銳ヲ  
モツテ膜外ニ投シ之ヲシテ柔和ナラシムルトキハ氣ノ途  
ヒラクゾ。氣ノ三チヒラクトキハ血又順ル血スグルトキハ膜  
モウルホヒヲ得テ。イヨク々柔和ナルゾ。カルガユヘニ病トビコ  
ホルトコロナキゾ。人ヲクハ針ヲ刺スニ。コノヲモキナシ針  
藏府ニ入テ揚ヲナスゾ。予ガ刺ストコロハ今予ガ陳ルガ

ゴトキソノ腹ヲ刺ストイヘドモ。ナニヲソルハトコロアラシヤ。内  
經ニイワク。熱暉大脉澹々汗大勞大飢大渴新飽  
大驚等ニナ刺ス。一ナシ。又形氣不足病氣不足此陰陽  
ミナ不足ナリ。コレヲ刺スベカラズ。コレヲ刺ストキハカサ子テ  
ソノ氣ヲ竭ス。老者ハ絶滅。壯者ハ復セストアルゾ。ニユトナ  
ルカナ。コノ言ト。シカレドモ經脈ヲ刺ノ針ハ脉中ノ氣ヲ  
奪フユヘニ。ミナコレヲ恐ルゾ。予ガ刺ストコロノ針ハ經  
脈ノトコロヲ除テ俱膜ヲ刺シヤワラクルノ一德ノミ  
扁鵲ガ孤膜ノ儀ナリ

十七 阿是之穴之事  
阿是ノ穴ハ秘傳ナリ。凡ソ絡穴三百六十。腑ミナ經ノ  
正道ナリ。阿是ノ穴ハ三百六十。腑ノ外。痛ムトコロヲ推



テ針灸ヲ行フ。コレ阿是ノ穴ナリ。コレヲ天應ノ穴トモ又  
 散針トモ云ナリ。シカルトテニダリニ行フニアラス。タトハ  
 田ヲユクニ道ヲ行ズシテ。田ノ阿是ヲユクノコトナリ。道ヲ  
 アラ子トモ。田ノ中ヲユカズシテ阿是ヲ行ガゴトキゾ。  
 經絡ノ外ナレトモニダリニホドコスニアラス。道理ヲカガ  
 針灸ヲナスモノナリ。ニダリホドコストキハ人ヲナヤミス。シカル  
 ニヨリ。秘中ノ秘トシテ。コレヲユルサズ。初學ノモノイタスコト  
 ニアラスヨク。經絡ヲ會得シタル者。阿是ノ穴ヲ行フ  
 ト奇驗アリ

十八

手之指圖

小指ト云  
 無名指ト云  
 中指ト云  
 食指ト云  
 母指ト云

此ゴトク中指ヲカマテ  
 一ノ折メトニテ折取トリ  
 アイダノ文ノ頭ニテ  
 折法ヲ取其身ノ  
 一寸定ルナリ

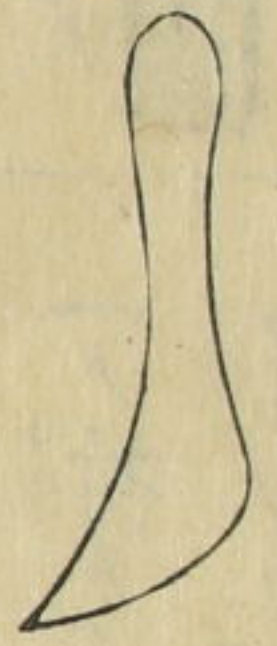
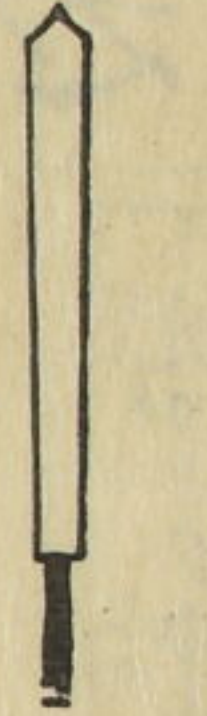
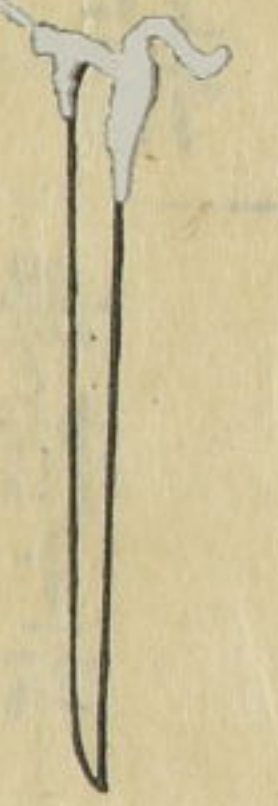
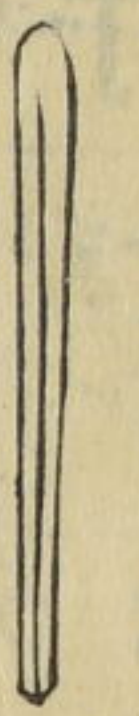
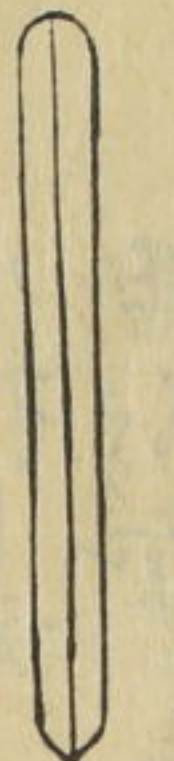





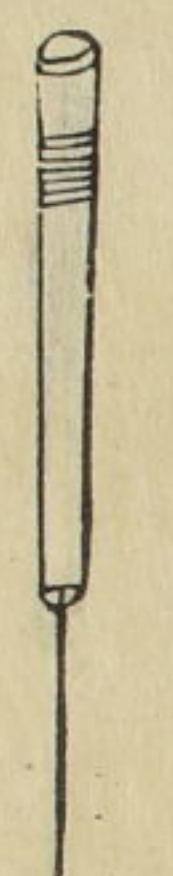

手クヒノ此文ヲ腕腕ノ文ト  
 云テ手ノ内ヲ掌ト云テ手ノ  
 外ヲ腕甲ト云テ





十九針之圖之事  
九針之圖

鑿針	圓針	鍤針	鋒針	鈹針
				
鑿針ハ長サ一寸六分熱頭身ヲ アルヲ刺ス	圓針ハ長サ一寸六分分間ノ氣 ヲ刺ス	鍤針ハ長サ三寸半脈ヲヲレ邪氣 ヲ刺ス	鋒針ハ長サ一寸六分癰熱ニ刺 テ血ヲ出ス	鈹針ハハニ寸半長サ四寸癰ニ 刺テ膿ヲ出ス

圓利針	毫針	長針	大針	燃針
				
圓利針ハ長サ一寸六分癰痺ヲ トル	毫針ハ長サ一寸六分寒熱痛痺 ニ刺ス	長針ハ長サ七寸深邪遠痺ヲ 刺ス	大針ハ長サ四寸大氣關節ヲ 刺ス	燃針ハ長短サミダアリ針者ノ 氣ニ應ジテ勝ヲレカレトモ長キハヨロレカラス軸六分穂一 寸五分目リニ寸マテガ大射ヨシ



打針



打針ハ軸一寸穂二寸五分也

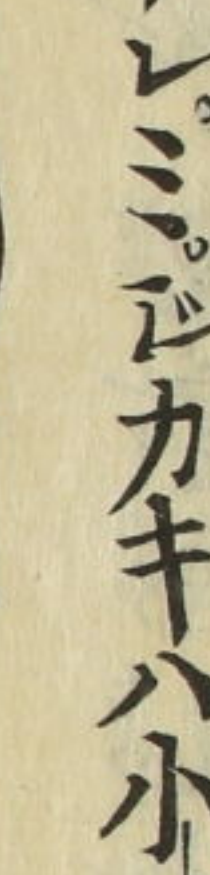
管針



管針ハ軸一寸穂一寸八分又

ホ針ハ軸六分穂一寸二分長キハ大仁ニ用ユ針少

硃針



硃針ハ軸八分穂モ八分穂ノ太

ミ麥ノチクホトサキヲ三角ニトカス腫物ノ血ヲトル

ケニキ刺シテ血ヲトル邪氣アツマリテ癩ミナス時此

針ニテ血ヲトル邪氣則サル

右當世ノ針ナリ理ハ和カナルヲモツテ勝タリトス昔ハ天

地萬物ノ精ミナ昌強ナルニ針モ大針法モ又シカナリ

今ノ人精カヨキニヨリ針モ細小ニシテ法モヤリヲカ

ナルヲモツテ本トス

二一 骨度之圖説之事

遺身臟腑形状

肝ノ重サ四斤四兩左リ三葉右リ四葉魂ヲ藏ス

心ノヲモサ十二兩中ニ七孔三毛有リ精汁ヲ盛

神ヲ藏ス

脾ノヲモサ二斤三兩扁廣三寸長五寸散膏半斤血ヲ

裹ムヲツツカサトル五臟ヲアタメテ魂ヲ藏

肺ノヲモサ二斤三兩六葉兩耳凡八葉魄ヲ藏

腎ニ兩枚アリ重サ一斤一兩志ヲカクス

膽ハ肝ノ短葉ノ間ニアリヲモサ三兩三銖精汁ヲ盛

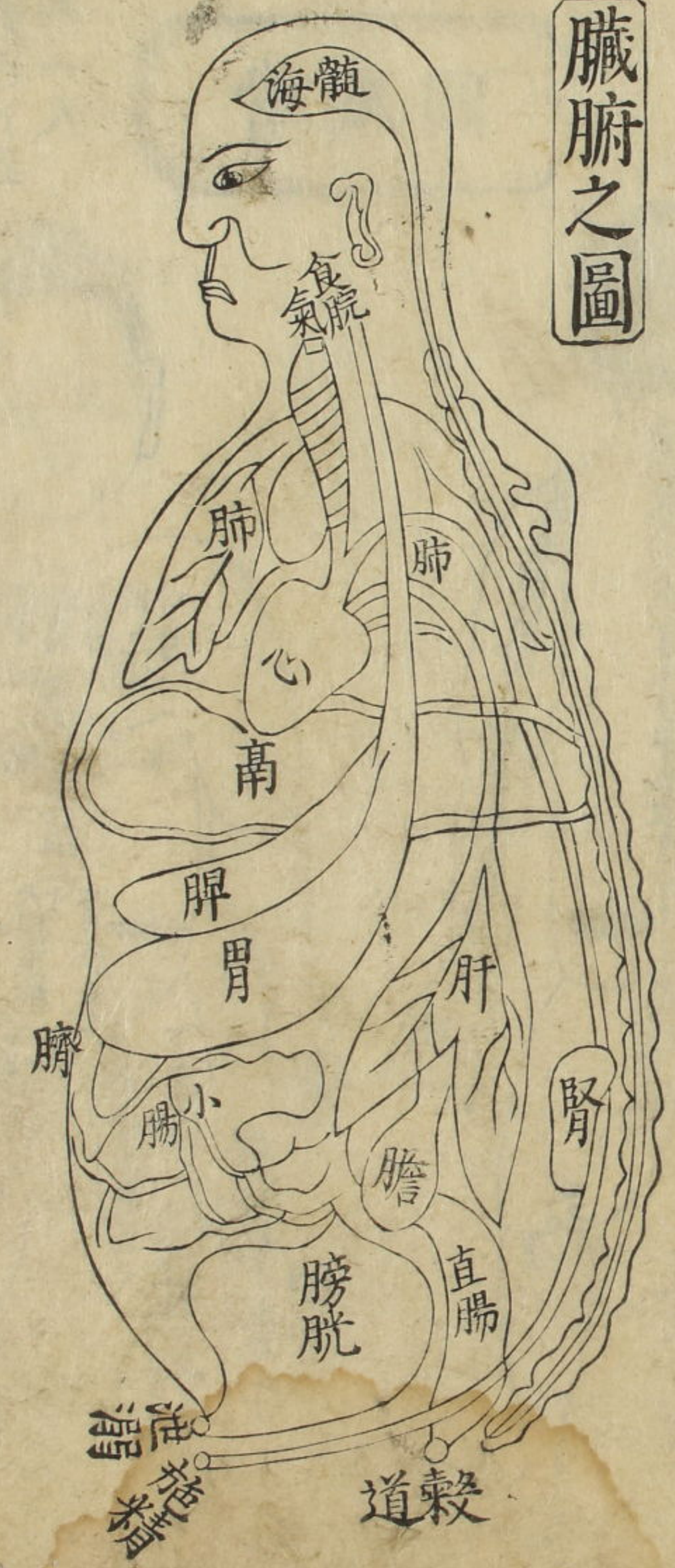
胃ノ重サ二斤十四兩紆曲屈伸長二尺六寸大一尺



五寸徑五寸穀ヲ盛フ二斗水一斗五升  
 小腸ノヲモサ二斤十四兩長三丈二尺廣二寸半徑八  
 分分ノ少半左三迴リ疊積フ十六曲穀ヲ盛フ二斗  
 四升水六升三合合ノ大半  
 大腸ノヲモサ二斤十二兩長二丈一尺廣四寸徑一寸臍  
 二當テ右ニ迴リ疊積フ十六曲穀ヲ盛フ一斗水七升半  
 膀胱ノヲモサ九兩二銖縱ノヒヨサ九寸瀦ヲ盛フ九升  
 九合口ノ廣サ二寸半厚ヨリ齒ニ至テ長九分齒ヨリ  
 以後會瘕ニイタリテ深キフ三寸半大五合ヲ容ル  
 舌ノヲモサ十兩長七寸廣二寸半  
 咽門ノヲモサ十兩廣二寸半胃ニ至テ長一尺六寸  
 喉龍ノ重サ十二兩廣二寸長一尺二寸九節

肛門ノ重サ十二兩大八寸徑二寸大半長二尺寸  
 穀ヲ受ルフ九升三合八分合ノ一

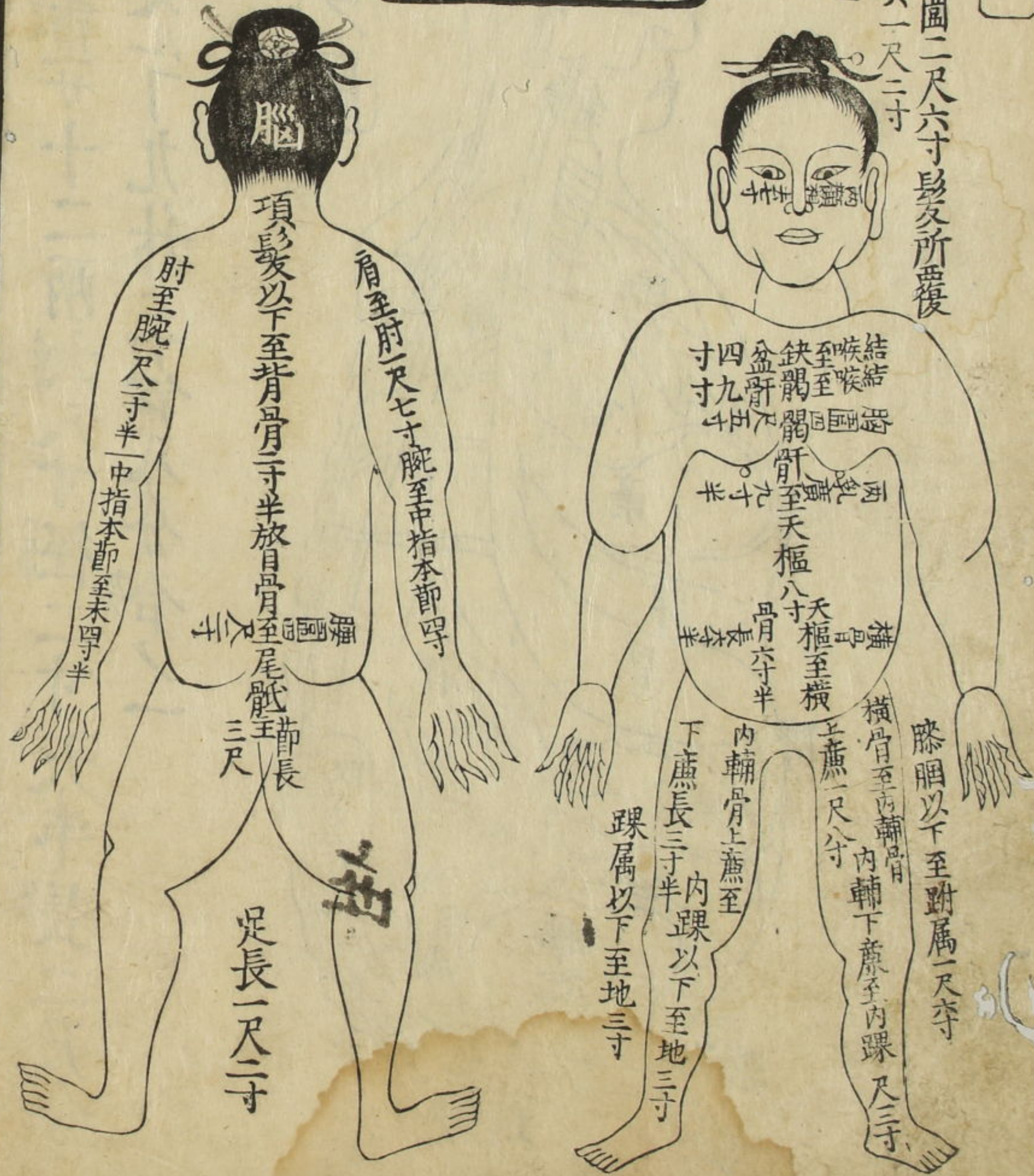
臟腑之圖





頭之大骨圍二尺六寸髮所覆者顛至項一尺三寸髮已下至頤一尺

骨度圖



骨度圖



